

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マダラ

学名 *Gadus macrocephalus*

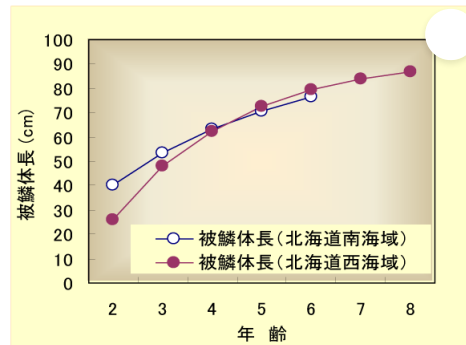
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳(北海道南海域)
産卵期・産卵場: 冬季(12～3月)、分布域全体
索餌期・索餌場: 不明
食性: 幼稚魚期は主にカイアシ類、底生生活に入ってからには主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類
捕食者: 海獣類

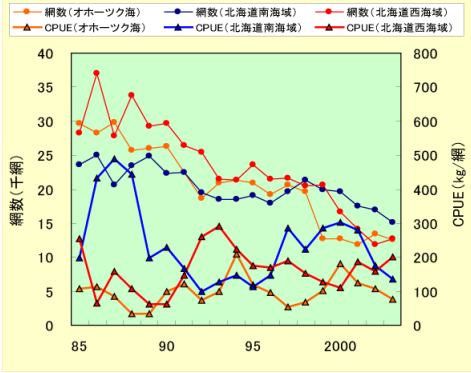
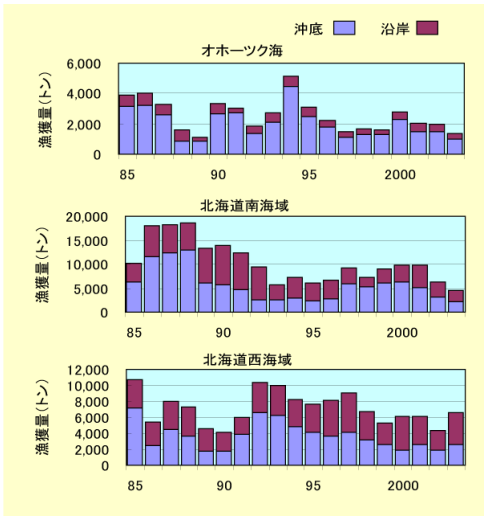
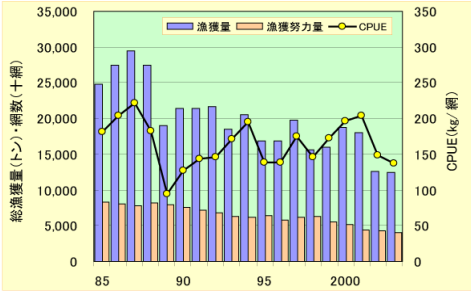


漁業の特徴

北海道周辺においてマダラは、沖合底びき網(沖底)の他に、刺し網、延縄、定置網など多くの沿岸漁業によって漁獲されている。北海道周辺における主な漁場は、オホーツク海では北見大和堆周辺海域、北海道南海域では十勝～根室沖、北海道西海域では武蔵堆～利尻・礼文島周辺海域である。漁獲はほぼ周年あるが、主漁期は冬季である。

漁獲の動向

全海域を合わせた漁獲量は、1988年以降減少傾向にあり、2003年には12,493トンとなった。オホーツク海における漁獲量は、2001年以降減少しており、2003年には1,366トンとなった。北海道南海域における漁獲量は、2002、2003年と減少し、2003年には4,562トンとなった。北海道西海域における漁獲量は、1993年以降減少傾向にあったが、2003年には増加し、6,565トンとなった。

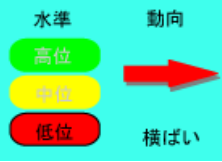


資源評価法

全海域を合わせた沖底の漁獲努力量は、1986年以降減少傾向にあるため、本漁業の漁獲量からは資源状態を判断できない。一方、沿岸漁業の漁獲努力量に関しては情報が得られていない。そのため、全海域を合わせた沖底のCPUEを基に資源評価を行った。

資源状態

全海域を合わせた沖底のCPUEは、1985年以降100～200 kg/網付近で比較的安定して推移している。2003年の値は、過去19年間に低く3番目に低い137 kg/網であった。また、過去5年間のCPUEにあてはめた回帰直線の傾きは、0と有意に異ならなかった。したがって、資源全体としての水準および動向は、それぞれ低位で横ばいと判断した。一方、同様の基準で判断した海域別の水準動向は、オホーツク海の資源が低位で横ばい、北海道南海域の資源が低位で減少、北海道西海域の資源が高位で横ばいであった。



管理方策

沖底のCPUEを基に判断した資源状態は、低位で横ばいであった。一方、CPUEは1985以降比較的安定して推移しているため、現在の漁獲圧を維持する限り、資源が急激に悪化する可能性は低いと考えられる。よって、資源水準は低位であるが、現在の漁獲圧を維持することを目指し、資源の変動パターンに合わせた漁獲を行うこととした。ABClimitは2003年の漁獲量×0.84とし、ABCtargetはABClimit×0.8とした。また、海域別では北海道南海域の資源が低位で減少と判断されたため、本海域の資源に関しては特に過剰な漁獲圧がかからないよう注意が必要である。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	10千トン	0.84Ccurrent	-	-
ABCtarget	8千トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 沖底のCPUEを基に資源状態を判断
- 資源全体としての水準および動向は、それぞれ低位で横ばい
- 海域別では、オホーツク海の資源が低位で横ばい、北海道南海域の資源が低位で減少、北海道西海域の資源が高位で横ばい

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲圧を維持することを目標に、資源の変動パターンに合わせた漁獲を行なう
- 北海道南海域の資源は、低位で減少と判断されたため、本海域の資源に関しては特に注意が必要

資源評価は毎年更新されます。